



月刊現代印章 3月号
13-15 頁に掲載されました。
「封筒特集」記事です。

スマートペーパー封筒キット

備アイエヌジー

備アイエヌジーが発売する「スマートペーパー」封筒キットなら、封筒印刷ビジネスを手軽に始めることができます。必要なのは同社の「スマートペーパー」とレーザー（トナー）プリンター、ラミネーターの3つ。導入費用はスマートペーパー推奨プリンター（リコーのSPC250L、約1万5000円）とスマートペーパー（100枚、4万円）、ラミネーター（例：約1万2000円）の計6万7000円。

誰も手を出さない小ロットフルカラー

実はこの「スマートペーパー」、真の実力は「マチ付き封筒」や「ひも付き封筒」、宅配などで使われる「宅配袋」、「ビジネスレターケース」にプリントできることにある。

従来、これらの封筒に印刷するには、製袋する前にオフセットやシルク印刷で刷るしか方法がなかった。そのため、オリジナルを作るとすると最低ロットが500枚、1000枚になるのが当たり前。これらの商材は厚みがありすぎるため、オンデマンドプリンターに通らないからだ。小ロットフルカラー印刷はほぼできない状態だった。しかし、「スマートペーパー」なら可能だ。

製袋後の分厚いビジネスレターケースでも、ラミネーターに通りさえすれば、前述の手順でプリント可能。ここに大きなビジネスチャンスがあると、同社の森井智子社長は言う。

①レーザープリンターを使い、デザインを鏡像でスマートペーパーにプリントしてカット。
②封筒のプリントしたい位置に出力済のスマートペーパーを載せる。
③ラミネーターにかける。
④スマートペーパーを剥がす。
⑤完成。

たったこれだけで、封筒にフルカラーデザインがプリントできる。SPC250Lのプリント速度は1分間に20枚（A4フルカラー）。位置決めやラミネートの時間を含めても、約3分でフルカラー封筒印刷ができる。簡単な作業なので、パートやアルバイトに任せてもいいだろう。生産性を上げたいなら、ラミネーターの数を増やせばいい。

「スマートペーパー」は転写紙。トナーの受理層や離形層、帯電防止層などの4層構造で、トナー自体の接着する性質を利用

ターケースは毎日のように見るが、佐川急便やヤマト運輸など、配送会社のロゴが入っているものがほとんど。なぜなら、オリジナルを作るには1000個単位で在庫を抱えなくてはならないから。それで仕方なく、配送会社の宅配袋やビジネスレターケースを購入しているという中小企業が多い。スマートペーパーを使えば、彼らに対して1個からオリジナル品を提案できるというワケ。

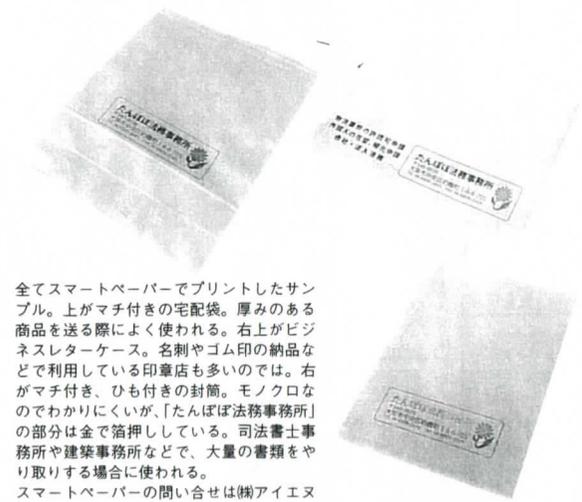
「宅配袋やビジネスレターケースへのプリントは、大口注文以外は手つかず。小ロットプリントは他がやっていないので、高値でも提案しやすい。厚手封筒なら、封筒代込みで1枚200〜300円でも販売できます。

すでに地元企業と取引のある印章店なら、商品提案しやすいはず」（森井社長）

すでにスマートペーパーを使ってマチ付き封筒やひも付き封筒、宅配袋、ビジネスレターケースへの小ロットプリントを始めている店では、「最初は月50枚程度の注文が、徐々に増えて今では月に約500枚受注するようになった例も聞いています。」

「スマートペーパー」は、封筒印刷はもちろん、ほとんど競争相手のいない市場に切り込むための大きな武器になりそうだ。

なお、備アイエヌジーでは「スマートペーパー」を使って「完全外注」、「スマートペーパーへのプリントのみ外注」、「スマートペーパーを仕入れて印章店自ら全てプリントする」という3つのプランを用意している。自店の周りに宅配袋やビジネスレターケースの需要がどれだけあるかわからない、と不安に思うなら、完全外注からはじめてもいいだろう。



全てスマートペーパーでプリントしたサンプル。上がマチ付きの宅配袋。厚みのある商品を送る際によく使われる。右上がビジネスレターケース。名刺やゴム印の納品などで利用している印章店も多いのでは。右がマチ付き、ひも付きの封筒。モノクロなのでわかりにくい、「たんぼ法律事務所」の部分は全て箔押ししている。司法書士事務所や建築事務所などで、大量の書類をやり取りする場合に使われる。スマートペーパーの問い合わせは備アイエヌジー（☎06-6232-8112）まで。

①〜⑥はスマートペーパーを使ったプリント手順。写真の番号は本文に対応している。実は、スマートペーパーには様々な種類があり、封筒だけでなく、ダンボールにプリントしたり、風船にプリントできるキットなども用意されている。プリントする素材によって、使用するスマートペーパーの種類も変わるそうだ。

